

試験研究成果普及情報

部門	特用林産	対象	普及
課題名：菌床シイタケ栽培におけるナガマドキノコバエの生態的特性と防除対策の解明			
<p>[要約] ナガマドキノコバエによる菌床シイタケの被害拡大が懸念される。幼虫は菌床の下部に多く生息し、菌床及び子実体を食害する。本虫は菌床に誘引され侵入するので栽培舎付近に廃菌床を放置しない。また成虫は日の出及び日没後に活発に活動するのでその時間帯は栽培舎の開閉はしない。</p>			
キーワード 菌床シイタケ、ナガマドキノコバエ、きのこ害虫、捕虫器			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・森林研究所 協力機関 (独)森林研究所、山口県、徳島県、群馬県、みのる産業(株)、カモ井加工紙(株)		
実施期間	2007年度～2009年度		

[目的及び背景]

菌床シイタケ栽培において近年、ナガマドキノコバエの被害が日本各地で報告されており、本県でも平成10年に被害が確認されている。本幼虫は菌床や子実体を食害する。また出荷時幼虫が付着していないことを確認する作業に、多大な時間を必要とする。

このため県内栽培施設での発生事例を調査し、生態的特性と防除対策を明らかにする。

[成果内容]

- 1 被害は気温の高い夏期に多く発生する(図1)。
- 2 ナガマドキノコバエ成虫は菌床に誘引され侵入するので、栽培舎付近に廃菌床を放置しない。また、栽培舎内は清潔に保ち、子実体が発生しなくなった古い菌床は早めに処分する。
- 3 幼虫が子実体に着し商品価値を著しく損ねるが、子実体内への穿入は確認されていない(写真1)。
- 4 幼虫は菌床の下部に多く生息し、菌床及び子実体を食害する。
- 5 栽培舎内から全ての菌床を除くと、本虫の生息も確認されなくなった。
- 6 成虫は日の出及び日没時に活発に活動する。
- 7 菌床を16時間水没させると幼虫及び蛹は死亡する。

[留意事項]

ナガマドキノコバエによる菌床シイタケへの被害拡大が千葉県でも懸念されるため、廃菌床の適切な処理や取り残しを無くすよう生産者に指導する。

[普及対象地域]

県下全域、菌床シイタケ栽培者

[行政上の措置]

[普及状況]

ナガマドキノコバエの識別ポイントについて、(独)森林総合研究所の普及啓発用リーフレットを使用し、林業普及指導員等に指導している。

[成果の概要]

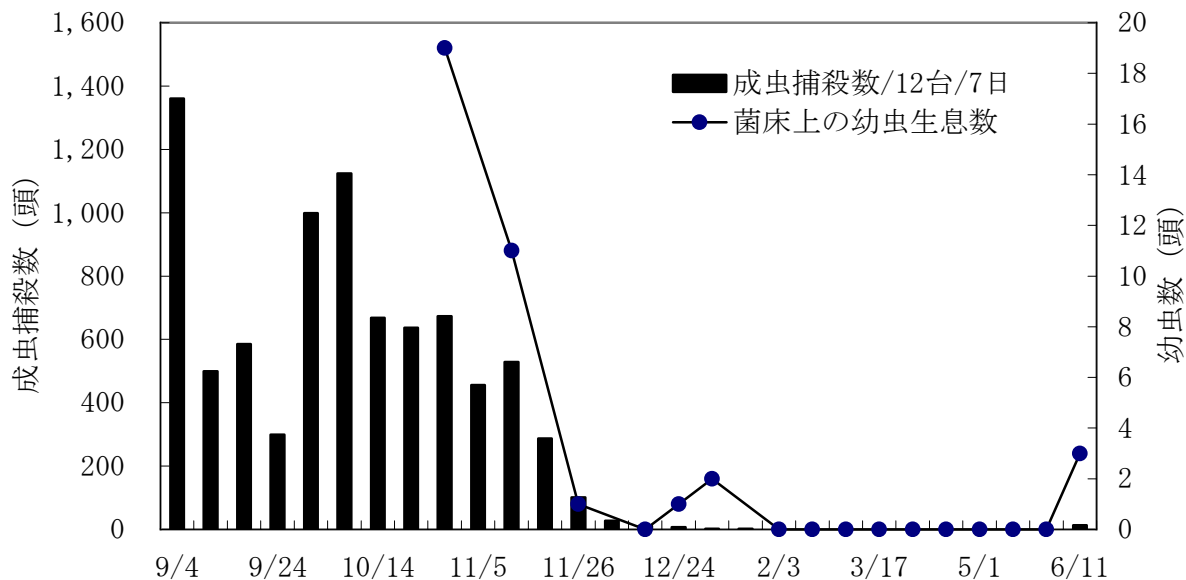


図1 ナガマドキノコバエの捕虫器による成虫捕殺数及び菌床上の幼虫数

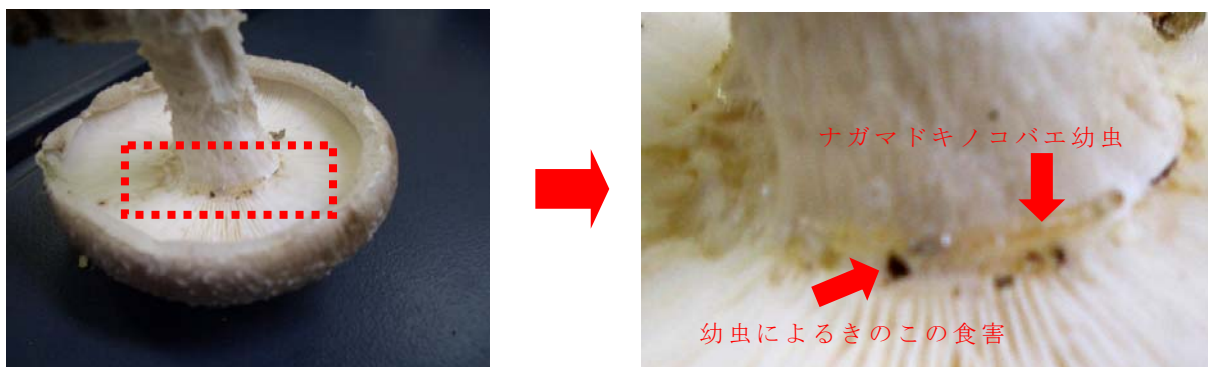


写真1 ナガマドキノコバエ幼虫による子実体被害

[発表及び関連文献]

- 1 千葉県における菌床シイタケの栽培形態と確認されたきのこ害虫、関東森林研究 60、231~232
- 2 菌床シイタケ害虫ナガマドキノコバエ成虫の日周活動、2009 日本応用きのこ学会発表要旨、60
- 3 平成 21 年度試験研究成果発表会 (林業部門)

[その他]

- 1 農林水産政策を推進する実用技術開発事業「課題名：菌床シイタケ害虫ナガマドキノコバエの環境保全型防除技術の開発」